

中尾町政 3 期目がスタート



任期満了に伴う四万十町長選挙は、4月5日に告示され、無所属で現職の中尾博憲氏（68歳）が無投票で3選を果たしました。

4月25日に初登庁した中尾町長は、庁舎入口に集まった多くの町職員に拍手で出迎えられ、3期目のスタートを切りました。

このたび、町長就任後、初の町議会となる令和4年第2回町議会臨時会において、町長の所信表明が行われましたので、その内容を紹介します。

町長所信表明

私は、去る4月5日に告示されました四万十町長選挙におきまして、引き続き今後4年間の町政を担当させていただくこととなります。

した。改めて、四万十町長としての責任の重さを実感しているところでございますが、ここに3期目となります町政運営の所信を申し述べさせていただきます。

平成26年4月からの2期8年間を振り返りますと、就任から間もない平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、国や県が策定いたしました戦略をもとに、本町におきまして四万十町「人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少対策と地方創生に取り組んでまいりました。その中でも特に「人材育成」、「子育て・教育・福祉の充実」、「移住・定住促進」につきましては、まちづくりを推進していくために欠かすことのできない施策として、国や県とも歩調を合わせながら職員一丸となって取り組んでまいりました。こうした施策が評価され、平成29年11月には、地方自治法施行70周年記念式典におきまして、「地方自治功労者総務大臣表彰」を拝受いたしました。これら施策の推進にあたりましては、議員各位をはじめ町民の皆様から温かいご指導・ご提言を賜り深く感謝申し上げます。

これらの施策に取り組んできた結果、公約の大きな柱として位置付けた「人材育成」では、町営塾「じゅ

うく」の開設をはじめ、ビジネスプランコンテストの開催といった起業の推進、地場産業の担い手や地域リーダーの育成を支援する活動なども進めてまいりました。

また、「子育て・教育・福祉の充実」では、ファミリーサポートセンター・子育て世代包括支援センターの開設や、各種支援制度・教育環境の充実等を図ってきたほか、高齢者福祉分野では、在宅介護の推進とあわせて、高齢者の自立支援や介護予防等を進めてきたところでございます。

さらに「移住・定住促進」では、四万十川をはじめとする本町の強みを生かした積極的な情報発信や観光振興のほか、ふるさと納税を通じた関係人口の創出、さらには移住・定住へと繋がるための支援制度や住宅施策の充実など、移住定住対策の取り組みを積極的に進めてまいりました。その結果、平成26年の就任時と比較しますと、移住者や新規就農者は増加傾向にあり、各地域や産業分野の担い手も生まれてまいりました。

こうしたことから、3期目におきましては、第2次四万十町総合振興計画（後期基本計画）で掲げる「目指すまちの将来像」に向け、3つの基本方針をベースに、これまでの好循環の兆しをしっかりと

継承・発展させつつ、本町の課題を克服し、更なる発展と活性化、にぎわいの創出に向け、新たな取組にも着手してまいりたいと考えております。具体的には、主に「事業承継の推進」や「農山村地域への若者の定住促進」と「災害に備えた」命を守る「対策の推進」でございます。

まず1点目の「事業承継の推進」につきましては、これまで進めてまいりました起業・創業支援に加え、人口減少や後継者不足が進む中、新たな課題となっております各分野における事業承継につきまとして、親族等による承継だけでなく、移住・定住も見据えた第三者承継も含め積極的に推進してまいりたいと考えており、国や県のサポート体制や助成制度に加え、町独自の仕組みづくりも検討していきたいと考えております。

続いて、2点目の「農山村地域への若者の定住促進」では、文化的施設を拠点とした街中のにぎわい創出を進める一方で、まちづくりの要となる各集落や周辺地域における担い手の確保と集落機能の維持活性化に向け、子育て支援や住宅施策を中心に、農山村地域への若者の定住促進を図ってまいりたいと考えております。

また、3点目の「災害に備えた」命

を守る「対策の推進」では、「災害犠牲者ゼロ」を目指し、津波浸水区域における避難行動要支援者の避難対策や、土砂災害を防止するための急傾斜地対策を行うなど、町内全域にわたって町民の皆様の命を守る対策を進めてまいります。

その他にも、道の駅あぐり窪川周辺に、観光客等の一時的な避難場所としての機能を備えつつ、高知自動車道から町内への着地・誘導を図るための「オアシス風観光交流拠点の整備による地域観光の推進」を進めるほか、「文化的施設を拠点としたコミュニティの醸成と芸術・文化の推進や街中のにぎわいの創出」、さらには「自然体験型教育の推進」といった取組も進めてまいりたいと考えておりますが、具体的な施策等につきましては、次回以降の町議会定例会におきまして順次お示ししたいと考えております。

なお、施策の推進にあたりましては、まちづくり基本条例にもありますとおり、町民の皆様の参画による議会・行政との「協働によるまちづくり」を進めていくことがこれまで以上に重要となっており、引き続き町民の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第2回町議会臨時会で副町長が選任されました



もり たけし 副町長
森 武士

副町長あいさつ

このたび、副町長に選任されました森武士です。

中尾町長3期目、最後の年度には、本町は合併20周年という大きな節目を迎える事となります。これまで町長を中心に「人材育成」「移住定住政策」「住宅政策の拡充」「ふるさと納税」などに積極的に取り組む、県内外から高い評価をいただいております。

今後、各種政策を実現するため議会並びに関係各課、関係機関との調整をしっかりと共に行い、初心を忘れる事なく、誠心誠意を基本として4年間精一杯努力したいと思っております。

教育委員

今回、岡澄子委員が令和4年3月31日をもって退職されたため、後任として新たに谷口和史氏が任命されました。また、佐々倉愛委員（保護者枠）が任期満了となりましたので、新たに野中裕子氏が任命されました。

なお、任期については、谷口氏が令和4年5月12日から令和7年5月11日（前任者の残任期間）までの3年間、野中氏が令和4年5月13日から令和8年5月12日までの4年間となります。



たにくち かずし
谷口 和史
(71歳・大正)



のなか ゆうこ
野中 裕子
(37歳・根々崎)
(保護者枠)

監査委員

監査委員は、地方公共団体の財務に関する事務の執行およびその経費に係る事業の管理を監査する機関です。今回、委員の任期満了に伴い、次の方が選任されました。

たなべ みきお
田邊 幹男 (72歳・西ノ川)

選挙管理委員会委員

四万十町選挙管理委員会は、4人の委員で組織しています。今回、委員の任期満了に伴い、次の方々が選出されました。

はやし ひさし
林 久志 (65歳・古城)

たなべ たく
田邊 卓 (65歳・大正)

しきじ けいすけ
敷地 敬介 (63歳・東川角)

はせべ えみ
長谷部 恵美 (60歳・香月が丘)

7月号では
中尾町政3期目について
分かりやすく解説します！